

## I. 景況調査

### 1. 景況調査について

#### ○本調査書作成の目的

朝来市内事業者が主要商圈とする朝来市地域、但馬地域、及び兵庫県内の経済動向を調査し、市内の業種別産業構造を把握することで、効果的な将来予測、及び経営計画の策定等に繋げる目的とします。

#### ○本調査書の作成方法

朝来市商工会の会員事業所に対して「調査票」の記入を依頼、回収したデータを基に、他の調査や情報とも比較して調査書を作成します。

#### ○『D.I.』について

D. I. とは、景気の各項目事項について、「良い」と感じている企業の割合から、「悪い」と感じている企業の割合を引いた値を示します。右の表の場合、  
「良い」20% - 「悪い」30% = -10%  
となり、D. I. 値は-10 ポイントと示すことができます。

業況	件数	構成比
良い	10 件	20%
不変	25 件	50%
悪い	15 件	30%
合計	50 件	100%

#### ○参考とする調査書と有効回答数について

本調査書の作成にあたり、株式会社みなと銀行が四半期毎に実施する「兵庫県内中小企業の景況調査」、および但馬信用金庫が四半期毎に実施する「但馬管内の景気動向調査」の調査結果を参照しています。

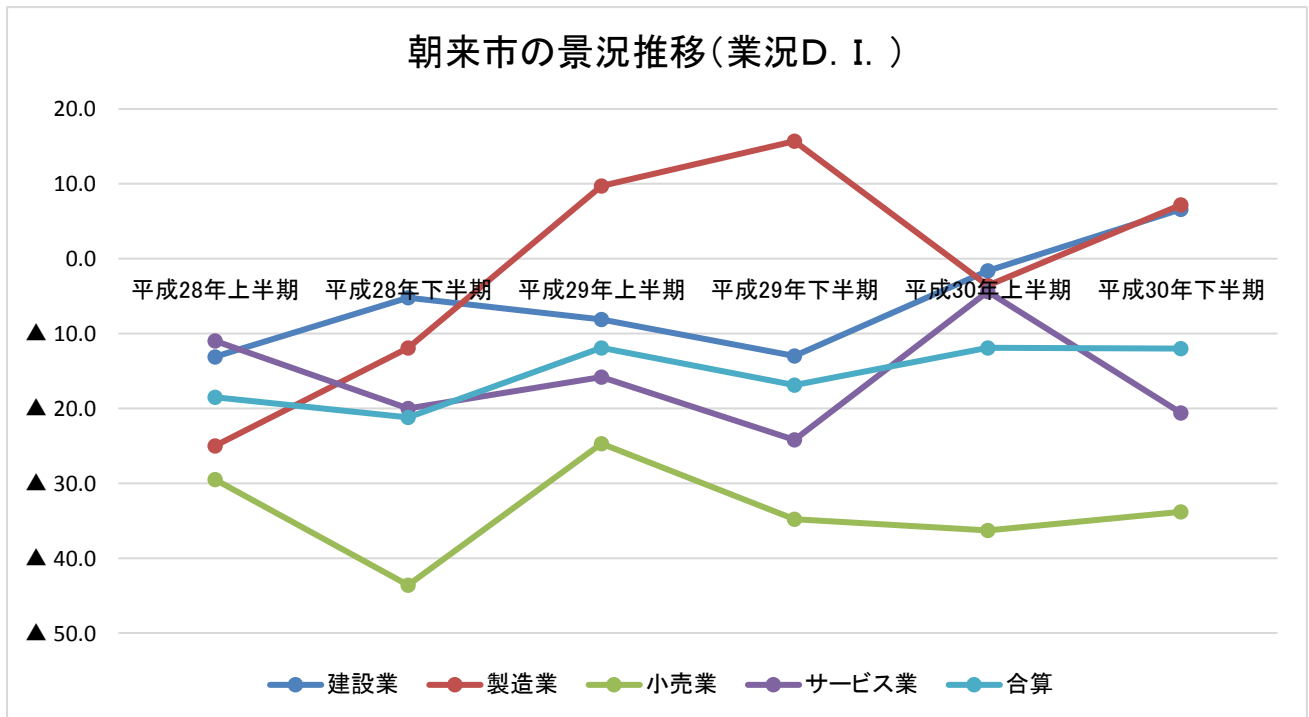
#### (対象期間における有効回答数)

	建設業	製造業	小売業	サービス業
兵庫県内中小企業の景況調査 (株みなと銀行)	228 件	407 件	86 件	115 件
但馬管内の景気動向調査 (但馬信用金庫)	83 件	74 件	45 件	134 件
朝来市景況調査書 (朝来市商工会)	61 件	69 件	71 件	107 件

#### ○業種の分類について

本調査書では、朝来市内事業所における卸売業は「小売業」とあわせて、飲食・宿泊業等は「サービス業」とあわせて集計していますので、ご注意ください。

## 2. 朝来市の景況推移



	平成 28 年 上半期	平成 28 年 下半期	平成 29 年 上半期	平成 29 年 下半期	平成 30 年 上半期	平成 30 年 下半期
建設業	▲ 13.1 (38 件)	▲ 5.2 (57 件)	▲ 8.1 (62 件)	▲ 13.0 (54 件)	▲ 1.6 (64 件)	6.6 (61 件)
製造業	▲ 25.0 (32 件)	▲ 11.9 (59 件)	9.7 (62 件)	15.7 (51 件)	▲ 3.6 (55 件)	7.2 (69 件)
小売業	▲ 29.5 (44 件)	▲ 43.6 (71 件)	▲ 24.7 (93 件)	▲ 34.8 (66 件)	▲ 36.3 (80 件)	▲ 33.8 (71 件)
サービス業	▲ 11.0 (64 件)	▲ 20.0 (105 件)	▲ 15.8 (101 件)	▲ 24.2 (95 件)	▲ 4.4 (113 件)	▲ 20.6 (107 件)
合算	▲ 18.5 (178 件)	▲ 21.2 (292 件)	▲ 11.9 (318 件)	▲ 16.9 (266 件)	▲ 11.9 (312 件)	▲ 12.0 (308 件)

平成28年から朝来市地域を対象とした景況調査を開始し、本調査で6回目となりました。上のグラフでは、今回までの6回の調査でお尋ねしてきた、「業況(自業種の景気動向)」の集計結果の推移を示しています。また、表の上段はD.I.値、下段はその時の集計件数を示しています。

他の業種と比較して、小売業は一貫して悪い状況にあります。一方で建設業が回復基調にあり、過去6回の調査の中でも最も高い数値となるとともに、初めてプラスに転じました。

### 3. 業種ごとの集計

#### ①建設業（有効調査書数：61件）

○昨年(7～9月)と比較して、今期の業況はいかがですか？

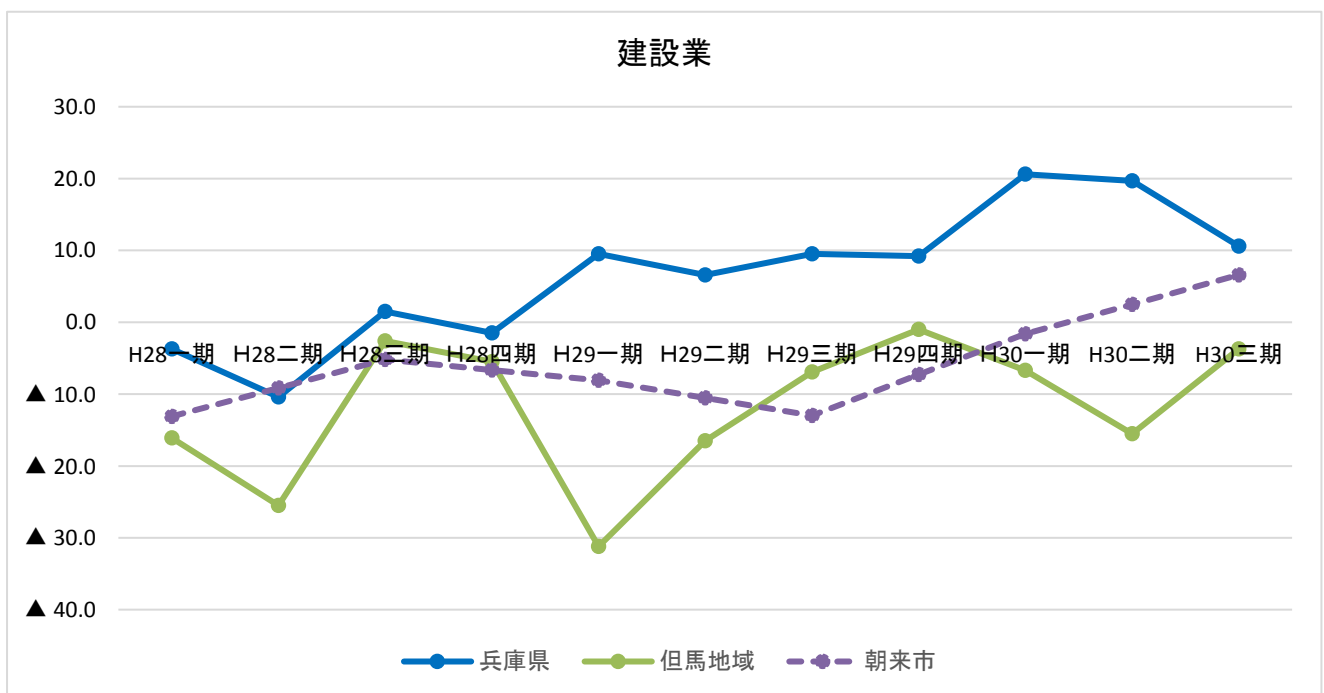
	件数	構成比
好転	14件	23.0%
不変	37件	60.7%
悪化	10件	16.4%

割合としては、「不変」とお答えいただいた事業者が最も多い状況です。「好転」の回答が「悪化」を上回り、景況判断値は当調査の開始以後初めてのプラス値『6.6ポイント』となりました。

地域	D. I.
兵庫県 (みなと銀行)	10.6ポイント
但馬地域 (但馬信用金庫)	▲ 3.7ポイント
朝来市	6.6ポイント

建設業のD. I.を地域別に比較すると、前回調査と同様に、兵庫県の数値が最も良い数値、但馬地域が最も悪い数値となっています。建設業の景況判断値は他の業種と比較して全体的に高い水準にあります。

#### ○建設業における地域ごとの景況推移



※朝来市は二期（4～6月）、四期（10～12月）の調査未実施のため、中間点を計上

建設業における地域ごとの景況推移を見てみると、但馬地域が最も悪い値であるものの、全体的に回復基調と言えます。また他の業種と比較しても、景況値の波が小さく、全体を通じて業況が上向きであると言えます。

○経営上の問題点（建設業－朝来市）

	平成 29 年上半期	平成 29 年下半期	平成 30 年上半期	平成 30 年下半期
1 位	従業員の確保難	従業員の確保難	熟練技術者の確保難	従業員の確保難
2 位	熟練技術者の確保難	熟練技術者の確保難	従業員の確保難	熟練技術者の確保難
3 位	需要の停滞	需要の停滞	材料等仕入単価の上昇	材料等仕入単価の上昇

経営上の問題点についても 4 回の調査結果を並べています。建設業では平成 29 年下半期まで回答に変化が見られなかったのですが、平成 30 年下半期より連続して「材料等仕入単価の上昇」が問題点としてあげられました。依然として、雇用の問題が上位にあがっており、多くの事業所では対応が迫られています。

○従業員の雇用について（建設業－朝来市）

【正社員（正規雇用）】

雇い入れを増やしたい	29 件
適正人数である	18 件
雇い入れが過剰である	0 件
雇用していない・しない	14 件

【パートタイマー（アルバイト）】

雇い入れを増やしたい	9 件
適正人数である	24 件
雇い入れが過剰である	0 件
雇用していない・しない	28 件

「経営上の問題点」からも読み取れるように、従業員の「雇い入れを増やしたい」とお答えいただく件数が多い状況にあり、正社員・パートタイマー問わず求められている状況にあります。朝来市の他の業種と比較すると、製造業に次いで「雇い入れを増やしたい」とお答えいただいた比率が高い状況にあります。「雇い入れが過剰である」との回答は全くありませんでした。

②製造業（有効調査書数：69件）

○昨年（7～9月）と比較して、今期の業況はいかがですか？

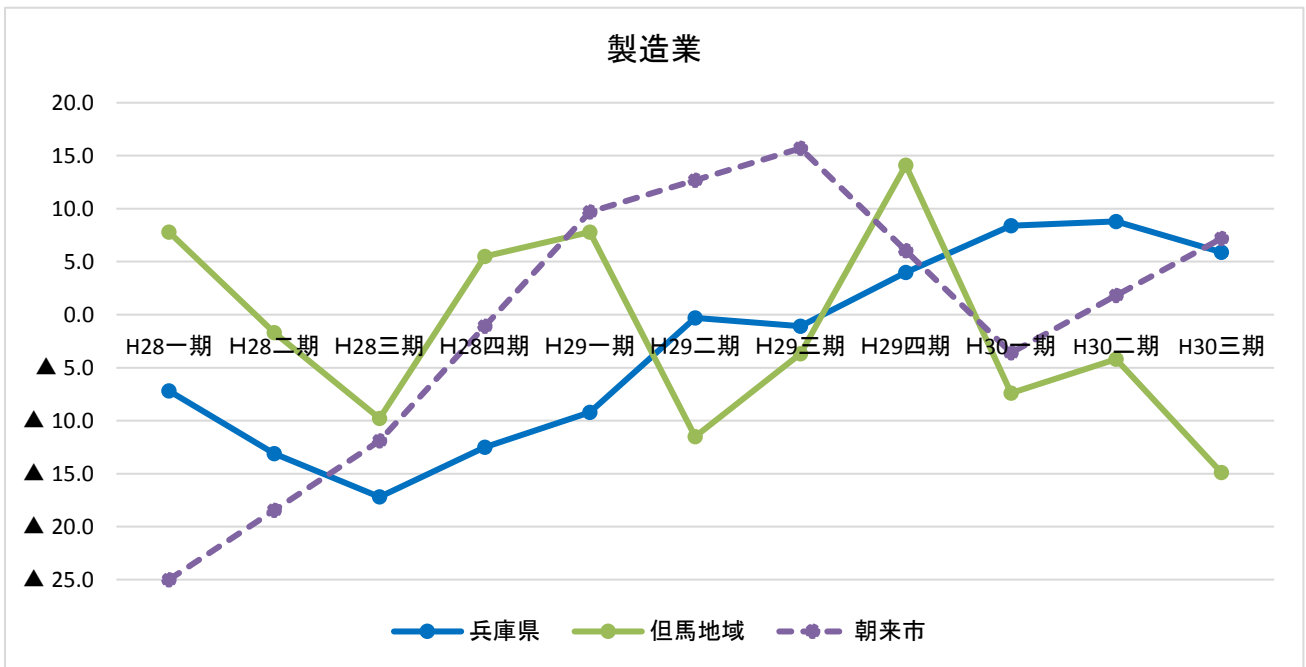
	件数	構成比
好転	21件	30.4%
不変	32件	46.4%
悪化	16件	23.2%

割合としては、「不変」とお答えいただいた事業者が最も多い状況です。「好転」が「悪化」を上回り、今回の調査でD.I.値がプラスに転じました。

地域	D.I.
兵庫県 (みなと銀行)	5.9ポイント
但馬地域 (但馬信用金庫)	▲14.9ポイント
朝来市	7.2ポイント

兵庫県、朝来市のD.I.はプラスとなりましたが、但馬地域ではマイナスとなりました。なお、朝来市では製造業が最もD.I.値が高いという状況ですが、兵庫県、但馬地域では建設業が最も高いという結果になりました。

○製造業における地域ごとの景況推移



※朝来市は二期（4～6月）、四期（10～12月）の調査未実施のため、中間点を計上

製造業については右肩上がりの傾向にありましたが、落ち着いてきた印象を受けます。兵庫県、朝来市は似たような形で推移が続いている一方、但馬地域は時期によって景況判断が激しく変わってきています。なお但馬地域では、当調査開始以降、最も悪い景況判断値となりました。

○経営上の問題点（製造業－朝来市）

	平成 29 年上半期	平成 29 年下半期	平成 30 年上半期	平成 30 年下半期
1 位	材料等仕入単価の上昇	材料等仕入単価の上昇	材料等仕入単価の上昇	材料等仕入単価の上昇
2 位	従業員の確保難	従業員の確保難	人件費以外の経費の増加	従業員の確保難
3 位	需要の停滞	人件費の増加	従業員の確保難	店舗施設の老朽化

4 期連続で「材料等仕入単価の上昇」が最も大きな問題としてあがっています。次点として、従業員の確保難についても 4 期連続であがってきており、根強い問題とされています。もう 1 点の問題点としては、この 4 期を見ると流動的となっており、個々の事業所により抱える問題が異なるものと考えられます。

○従業員の雇用について（製造業－朝来市）

【正社員（正規雇用）】

雇い入れを増やしたい	33 件
適正人数である	22 件
雇い入れが過剰である	1 件
雇用していない・しない	13 件

【パートタイマー（アルバイト）】

雇い入れを増やしたい	19 件
適正人数である	25 件
雇い入れが過剰である	2 件
雇用していない・しない	23 件

「経営上の問題点」からも読み取れるように、従業員の雇用を増やしたいとお答えいただく件数も多く、正社員・パートタイマー問わず求められている状況にあります。業種問わず多くの事業所が人材確保を課題としてあげていることから、自社の企業PRや他社との差別化などを図る必要性が考えられます。一方で雇い入れが過剰であるという回答もそれぞれであがっており、売上拡大、もしくは経費削減等といった対策の必要性が感じられます。

③小売業（有効調査書数：71件）

○昨年（7～9月）と比較して、今期の業況はいかがですか？

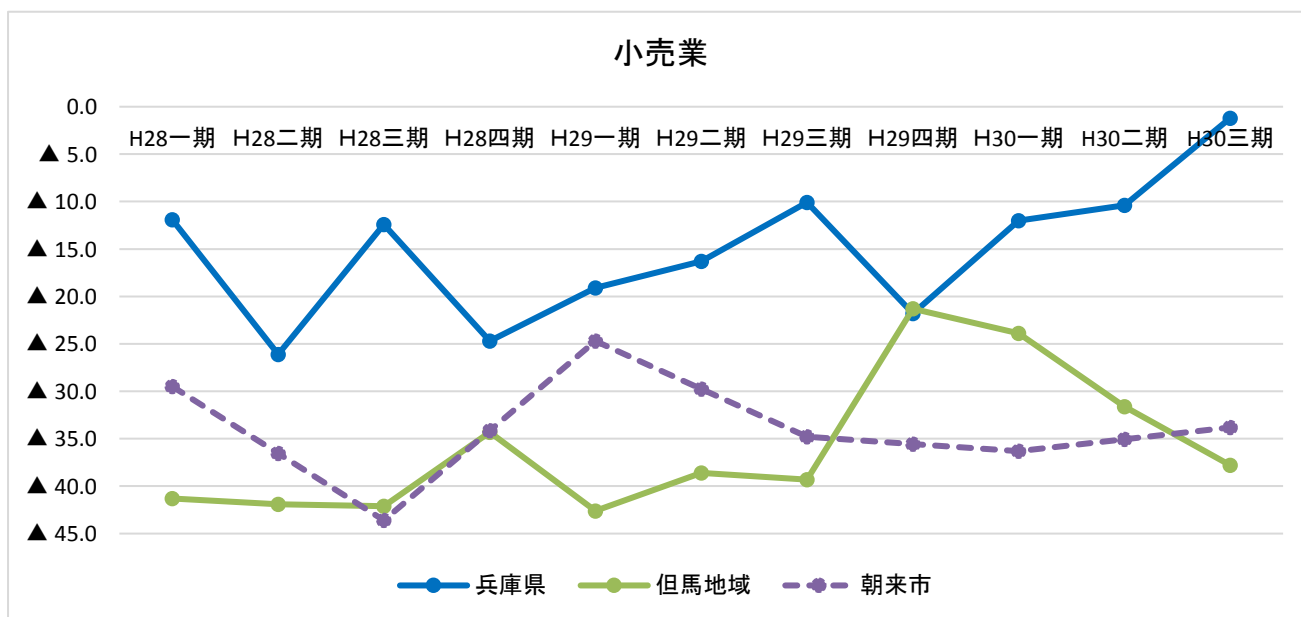
	件数	構成比
好転	7件	9.9%
不変	33件	46.5%
悪化	31件	43.7%

「悪化」とお答えいただいた事業者の割合が多く、他の業種と比較しても最も高い割合となりました。「好転」の回答も少なく、依然として景況判断値は他の業種と比較しても低い状況にあります。

地域	D. I.
兵庫県 (みなと銀行)	▲1.2ポイント
但馬地域 (但馬信用金庫)	▲37.8ポイント
朝来市	▲33.3ポイント

前回調査から引き続き、全ての地域において最も悪いD. I. 値を示しているのが小売業となっています。そのような状況ではありますが、地域間で比較すると、兵庫県では改善傾向が見られ、過去の調査の中で最も高い数値となりました。

○小売業における地域ごとの景況推移



※朝来市は二期（4～6月）、四期（10～12月）の調査未実施のため、中間点を計上

小売業では、他の業種と比較して景況感の移り変わりが激しい状態にはありますが、兵庫県では右肩上がりの傾向が見られます。但馬地域では平成29年の第四四半期に改善傾向が見られましたが以後の状況が芳しくなく、朝来市でも低い値で横ばいの状況が続いています。

○経営上の問題点（小売業－朝来市）

	平成 29 年上半期	平成 29 年下半期	平成 30 年上半期	平成 30 年下半期
1 位	利用者ニーズの 変化への対応	需要の停滞	利用者ニーズの 変化への対応	利用者ニーズの 変化への対応
2 位	需要の停滞	利用者ニーズの 変化への対応	需要の停滞	需要の停滞
3 位	大企業の進出に よる競争の激化	従業員の確保難	従業員の確保難	店舗施設の 老朽化

上位 2 項目については、過去の調査と同様に継続的な問題点としてあげられています。尚、今回の調査で初めて、「店舗施設の老朽化」が問題点として上位にあがりました。

○従業員の雇用について（小売業－朝来市）

【正社員（正規雇用）】

雇い入れを増やしたい	7 件
適正人数である	30 件
雇い入れが過剰である	1 件
雇用していない・しない	33 件

【パートタイマー（アルバイト）】

雇い入れを増やしたい	9 件
適正人数である	28 件
雇い入れが過剰である	0 件
雇用していない・しない	34 件

景況感が芳しくない状況ではありあますが、「雇い入れを増やしたい」という事業者も多くありました。また、アルバイトを含め、従業員を「雇用していない・しない」という回答も多くなりました。



#### ④サービス業（有効調査書数：107件）

○昨年（7～9月）と比較して、今期の業況はいかがですか？

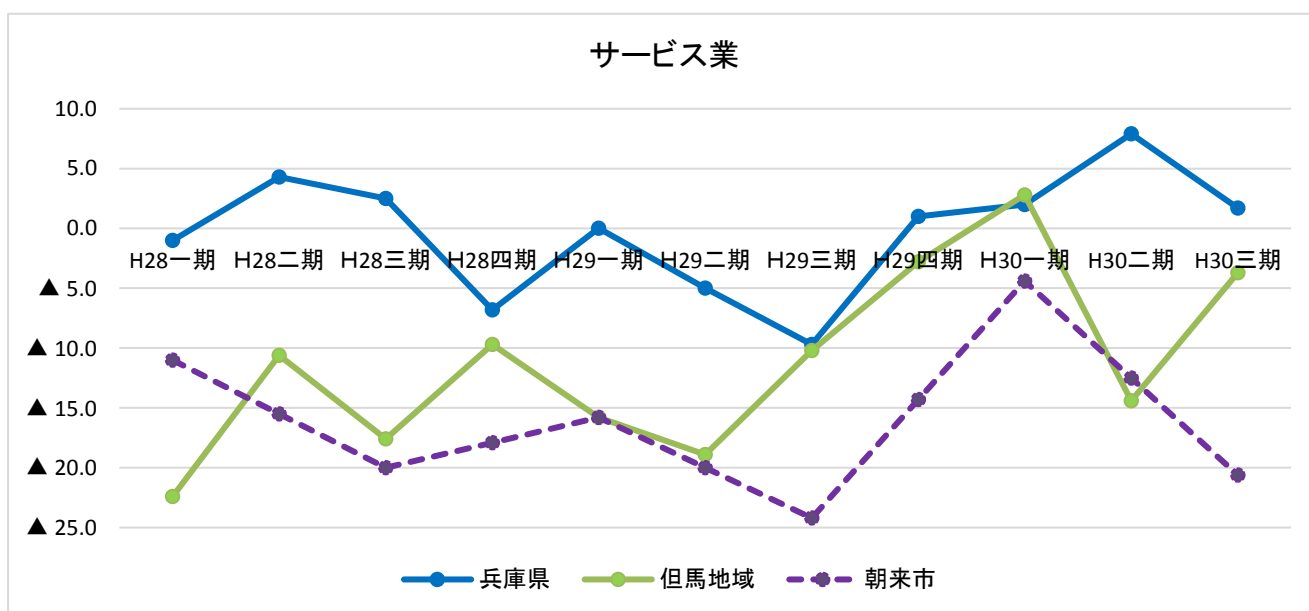
	件数	構成比
好転	12件	11.2%
不変	61件	57.0%
悪化	34件	31.8%

割合としては、「不変」とお答えいただいた事業者が最も多かったものの、「悪化」とお答えいただいた事業者が「好転」より多く、景況判断値は『▲20.6ポイント』となりました。

地域	D. I.
兵庫県 (みなと銀行)	1.7ポイント
但馬地域 (但馬信用金庫)	▲3.7ポイント
朝来市	▲20.6ポイント

近隣3地域を比較すると、他地域と大きく差をつけて朝来市が最も低くなりました。兵庫県は平成29年第四四半期から継続してプラスに転じており、回復基調がうかがえます。

○サービス業における地域ごとの景況推移



※朝来市は二期（4～6月）、四期（10～12月）の調査未実施のため、中間点を計上

サービス業においては、兵庫県が右肩上がりの推移となっています。但馬地域においても、前期で一度落ち着いてしまいましたが、調査当初と比較すると改善傾向にあると言えます。一方、朝来市では一時的に回復傾向が見られたものの、今年度に入り一転、当調査の開始以後で二番目に低い景況判断値となりました。

○経営上の問題点（サービス業－朝来市）

	平成 29 年上半期	平成 29 年下半期	平成 30 年上半期	平成 30 年下半期
1 位	利用者ニーズの 変化への対応	利用者ニーズの 変化への対応	従業員の確保難	利用者ニーズの 変化への対応
2 位	店舗施設の老朽化	従業員の確保難	利用者ニーズの 変化への対応	材料等仕入単価 の上昇
3 位	需要の停滞	材料等仕入単価 の上昇	需要の停滞	店舗施設の老朽化

前回の調査時には景況も回復基調ということもあり、「従業員の確保難」が1位となりましたが、今回は上位にも入り込みませんでした。一方で、前回調査であがらなかった「材料等仕入単価の上昇」「店舗施設の老朽化」が上位にあがっており、景況感とともに問題点の変化も生じています。

○従業員の雇用について（サービス業－朝来市）

【正社員（正規雇用）】

雇い入れを増やしたい	21 件
適正人数である	42 件
雇い入れが過剰である	2 件
雇用していない・しない	42 件

【パートタイマー（アルバイト）】

雇い入れを増やしたい	28 件
適正人数である	38 件
雇い入れが過剰である	1 件
雇用していない・しない	40 件

「経営上の問題点」では「従業員の確保難」が問題点としてあがって来なかったものの、今回回答いただいた2割程度の事業所には、パートタイマー（アルバイト）の「雇い入れを増やしたい」とご回答いただいています。

## (参考) 全データの集計

○経営者、事業主の年齢を教えてください

	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
20代	0	0	0	0	0
30代	2	3	7	9	21
40代	15	13	12	15	55
50代	15	21	12	26	74
60代	21	18	21	30	90
70代以上	8	14	19	27	68

○事業承継、後継者について教えてください

	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
まだ考えていない、しばらく必要ない	19	27	28	39	113
後継者は既に決まっている	8	12	8	16	44
後継者はいるが、まだ決まっていない	14	17	14	24	69
候補者が見当たらない	7	6	0	7	20
後継者は必要ない	13	7	15	16	51

○経営状況や今後の方針について教えてください(複数回答可能)

	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
創業5年未満	2	3	5	10	20
売上・事業拡大	22	38	26	38	124
現状維持	24	25	33	51	136
事業承継への取り組み	3	11	6	19	41
廃業検討	10	5	10	6	34

※廃業を検討される方

	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
事業譲渡や引き渡しを検討	5	2	3	6	16
事業譲渡なども、全く考えていない	9	3	9	7	28

○雇用者数について教えてください

【正社員(正規雇用)】

	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
0人	16	15	33	42	106
1人～5人	23	22	26	37	108
6人～10人	8	6	10	14	38
11人～20人	6	9	2	8	25
21人以上	8	17	0	6	31
	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
雇い入れを増やしたい	29	33	7	21	90
適正人数である	18	22	30	42	112
雇い入れが過剰である	0	1	1	2	4
雇用していない・しない	14	13	33	42	102

【パートタイマー(アルバイト)】

	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
0人	35	24	38	40	137
1人～5人	24	28	23	47	122
6人～10人	1	7	5	9	22
11人～20人	1	4	3	6	14
21人以上	0	6	2	5	13
	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
雇い入れを増やしたい	9	24	9	40	82
適正人数である	24	0	28	107	159
雇い入れが過剰である	0	28	0	0	28
雇用していない・しない	28	61	34	0	123

○平成 30 年 1～3 月と前年同期(平成 29 年 1～3 月)を比較した状況について教えてください

		建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
業況	好転	14	21	7	12	54
	同じ	37	32	33	61	163
	悪化	10	16	31	34	91
売上	増加	16	4	32	2	54
	同じ	27	15	28	15	85
	減少	18	2	9	4	33
販売価格	増加	8	7	6	2	23
	同じ	43	14	49	1	107
	減少	10	0	14	4	28
仕入価格	増加	24	3	5	0	32
	同じ	31	16	3	0	50
	減少	6	2	8	4	20
資金繰り	好転	7	1	2	0	10
	同じ	48	2	5	1	56
	悪化	6	5	7	1	19

○今期の経営上の問題点を教えてください(上位 3 つまで)

	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
大企業の進出による競争の激化	2	1	20	6	29
新規参入業者の増加	6	5	11	10	32
利用者ニーズの変化への対応	11	13	36	38	98
店舗施設の老朽化	5	20	25	29	79
人件費の増加	7	20	6	15	48
人件費以外の経費の増加	10	17	11	22	60
利用料金の低下・上昇難	3	4	4	28	39
材料等仕入単価の上昇	16	33	12	37	98
金利負担の増加	1	1	2	1	5
事業資金の借入難	3	2	4	6	15
従業員の確保難	30	31	12	26	99
熟練技術者の確保難	25	13	0	11	49
需要の停滞	18	18	32	24	92
その他	6	7	10	11	34